



熱田神宮周辺 まちづくり未来ビジョン 【官民連携による検討案】

熱田神宮周辺エリアプラットフォーム
〇〇年〇〇月

目次

1. 未来ビジョン策定の趣旨
2. 未来ビジョンとは
3. まちづくりの合言葉
4. まちの現状
5. まちづくりの視点
6. まちづくりの方針
7. エリア・ゾーンごとのまちづくり
8. 拠点とネットワーク
9. 将来像実現に向けた実施体制
10. ロードマップ

1. 未来ビジョン策定の趣旨

■ 策定の趣旨

熱田神宮周辺エリアは、熱田神宮をはじめ、断夫山古墳や白鳥古墳、七里の渡し船着き場跡などの歴史資源、都々逸や熱田神戸節などの伝統文化が数多く継承されており、神話の時代から、古墳時代、戦国時代、そして東海道最大の宿場町として賑わった江戸時代まで、実に1900年以上の悠久の歴史と文化の蓄積がある地域です。

一方で、鉄道や地下鉄の各駅、市営バスの運行拠点があるなど、交通利便性が高く、かつ区役所や図書館、文化ホールなどの行政・生活利便施設が集積し、都市計画マスタープランでは「地域拠点」「重点的にまちづくりを展開する地域」にも位置付けられています。

こうした当エリアの特長・強みである歴史・文化の魅力を活かした観光の推進や、地域住民や駅利用者などの生活利便性の向上に資するまちづくりを進めるために、商業者や開発事業者、交通事業者、寺社関係者、まちづくり団体、地域住民、行政機関などの多様な主体が、同じ目標を目指して協働し、相乗的に効果を発揮できるよう、まちの将来像や取り組みの方向性を共有することを目的として、「熱田神宮周辺まちづくり未来ビジョン」を策定することといたしました。

このビジョンに基づいて、当地域のまちづくりに関わる多様な主体が、それぞれの取り組みを実施し、発展させることにより、熱田神宮周辺のエリア全体の活性化、ひいては名古屋市全体のポテンシャルの向上につなげていくことを目指しています。

■ 対象エリア



2. 未来ビジョンとは

■ 位置づけ

本ビジョンは、熱田神宮周辺エリアのまちづくりに関わる産官学民の多様な主体が参加する勉強会を開催して、内容を検討いたしました。この勉強会の参加者を中心として設立された熱田神宮周辺エリアプラットフォームにより、国土交通省が所管する「官民連携まちなか再生推進事業」制度に基づく「未来ビジョン」に位置づけられるものとして本ビジョンは策定されています。

（官民連携まちなか再生推進事業とは）

官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図ることを目的とした国土交通省所管の補助制度であり、主な補助対象項目は次のとおりです。

- ① エリアプラットフォーム構築
- ② 未来ビジョンの策定等
- ③ シティプロモーション・情報発信
- ④ 社会実験・データ活用
- ⑤ 交流拠点等整備
- ⑥ 普及啓発事業

今回、令和7年〇月に設立した
熱田神宮周辺エリアプラットフォームとして
「熱田神宮周辺まちづくり未来ビジョン」を
策定しました。



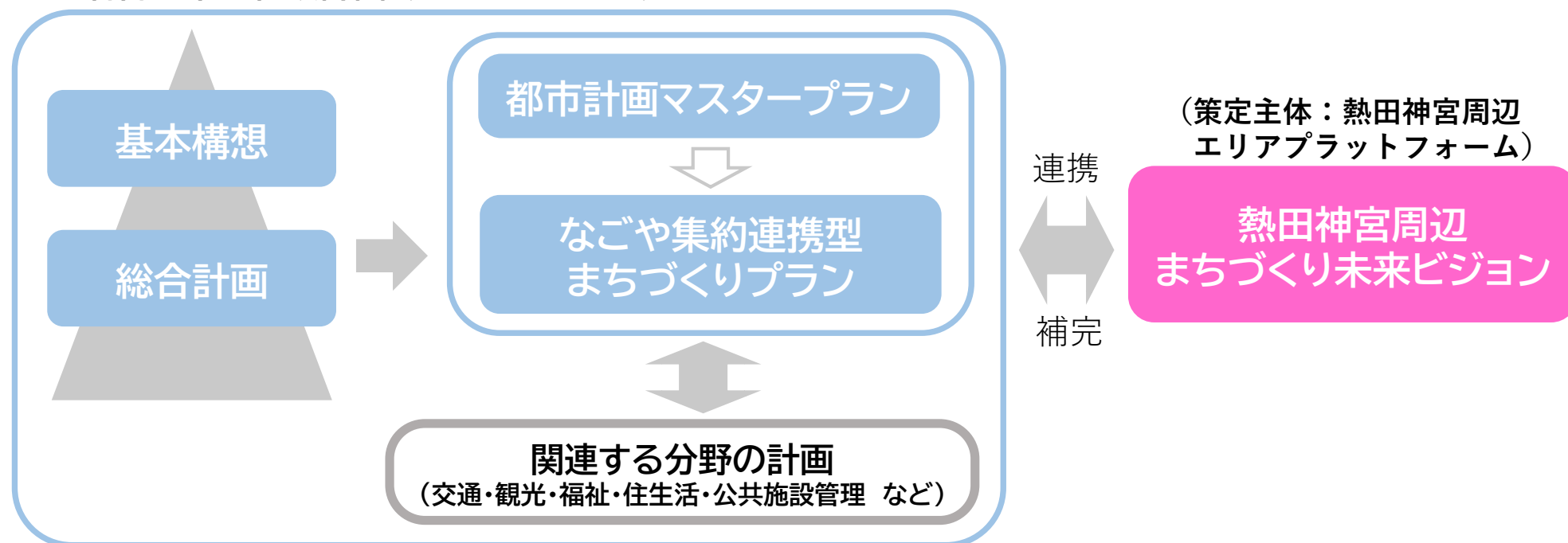
今後も、必要に応じて官民連携まちなか再生推進制度も活用しながら、熱田神宮周辺のまちづくりを進めていきます。

■ 行政計画との関係

熱田神宮周辺まちづくり未来ビジョンは、名古屋市が策定した各種行政計画と連携しながら、まちづくりを進めていきます。様々なノウハウやリソースを有する多様な主体が参画するエリアプラットフォームならではの強みを活かし、行政では手の届きにくい地域課題にも対応していきます。

また、熱田地区は、名古屋市の総合計画が掲げる将来の都市構造である「縦軸のまちづくり」上を中心に位置する拠点として、名城・三の丸地区、金山地区、名古屋港・金城ふ頭地区など他の拠点との連携を意識したまちづくりの展開も目指します。

名古屋市の行政計画（策定主体：名古屋市）



3. まちづくりの合言葉

共に紡ごう、熱田の想いを

熱田神宮の周辺エリアに住む人たち・働く人たち、そして縁(ゆかり)を持つ人たちは、それぞれに「熱田」に寄せる想いを抱えています。

熱田神宮周辺エリアならではの「歴史の厚み」、「文化の奥深さ」、「人々の優しさ」、「まちの楽しさ」、「水辺の心地よさ」への誇り、憧れ、愛着、懐かしさ……熱田に関わる人がそれぞれに自分の心の内に持っている「想い」をお互いに共鳴させながら、新たなまちの物語を紡ぎ、次の世代へ伝えていきたい。

そのような想いを込めて＜共に紡ごう、熱田の想いを＞をまちづくり未来ビジョンの合言葉にしました。

この合言葉をまちづくりに関わる全ての人たちと共有しながら、「オンリーワンの魅力で日本の『熱田』・世界の『ATSUTA』として輝くまち」、「悠久の歴史と文化が地域の誇りとして溢れ出ているまち」、「古さと新しさが共存し、いろいろなワクワク感を味わえるまち」、「訪れてもよし、住んでもよし、働いてもよし、寛容で心地よいまち」の実現を目指します。

4. まちの現状

■ 熱田のまちの概況

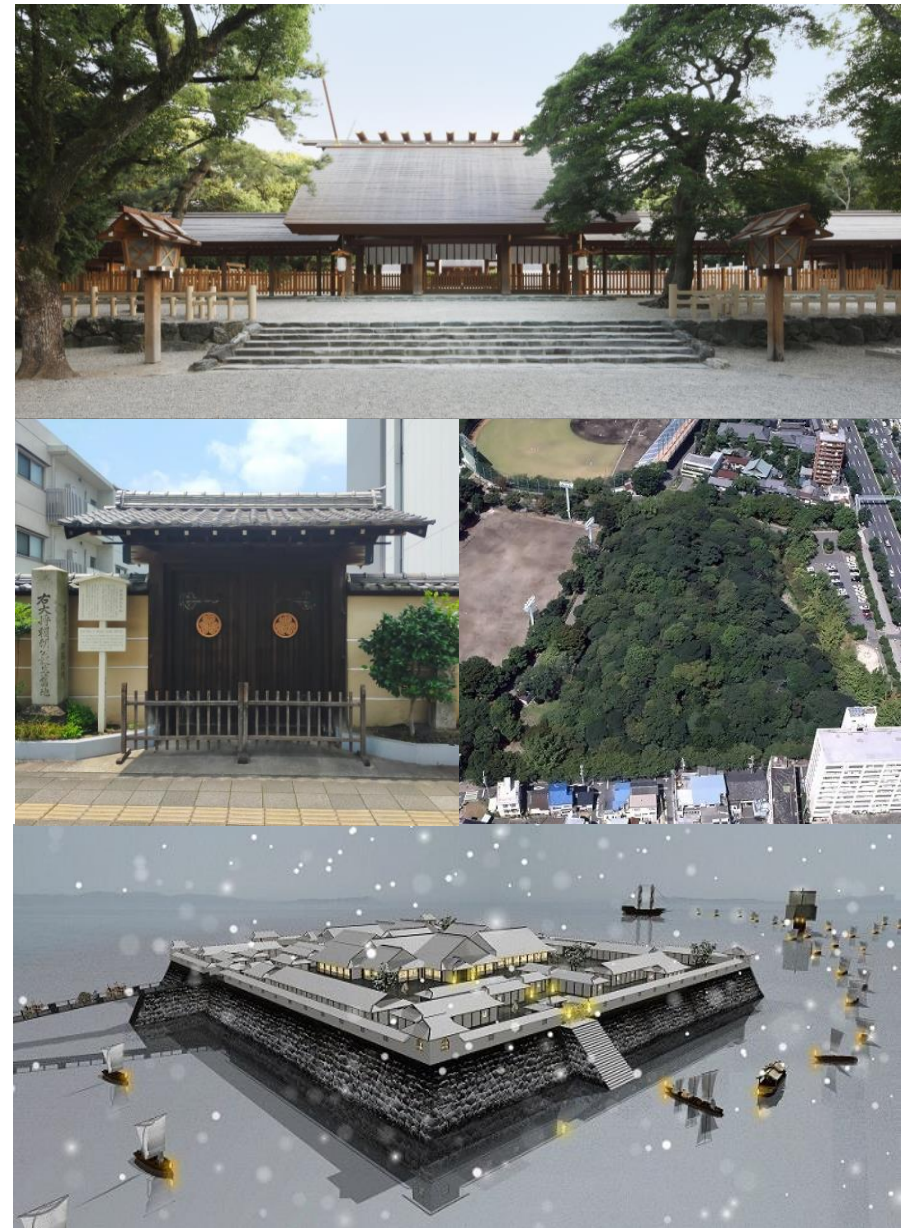
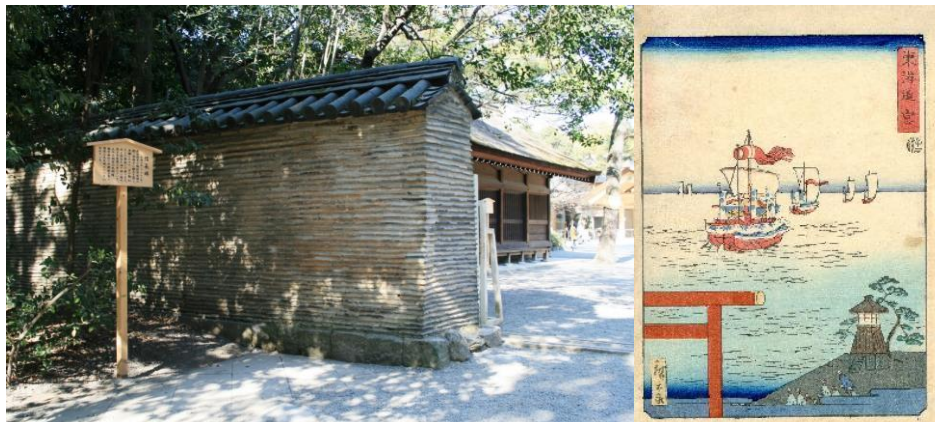
- 熱田のまちは、シンボルである熱田神宮を中心に、名古屋城の築城以前から重要な拠点でした。熱田台地の南端に位置し、東海地方最大の断夫山古墳が築かれるなど古くから人々の活動が盛んで、熱田神宮では、今も伝統的な神事が連綿と続けられ、悠久の歴史を伝えています。
- 熱田神宮の門前町、東海道一の賑わいを見せた宿場町、漁師町・湊町など様々な性格をあわせ持ったまちとして、独自の歴史を重ね、名古屋城下町とともに現在の名古屋の基盤となった地域です。
- まちの発展過程や戦災によって市街地の多くが消失したこともあり、かつての姿を今に伝える有形の歴史資源は少なくなりましたが、それでも東海道の道筋をたどることができ、東海道唯一の海路であった宮の渡しの船着き場跡と水辺があり、歴史的価値の高い旅籠跡が残るなど、日本の歴史を語る上で欠くことのできない地域となっています。
- 一方で、都々逸や祭り、神事など、無形の歴史資源も今に多く伝わり、地域独自の文化として継承され続けています。
- 生活面では、名鉄、JR及び市営地下鉄の各駅、市営バスの運行拠点があるなど、交通利便性の高い地域であるとともに、区役所や図書館、文化小劇場など行政、生活利便施設が集積する地域拠点にも位置付けられています。



■ 魅力的な地域資源

● 熱田神宮を中心とした1900年の歴史・文化

- ・ 神話時代・・・三種の神器「草薙神剣」を祀る熱田神宮
- ・ 古墳時代・・・断夫山古墳、白鳥古墳、白鳥伝説
- ・ 鎌倉時代・・・源頼朝生誕地
- ・ 戦国時代・・・桶狭間戦で信長が戦勝祈願した熱田神宮
- ・ 江戸時代・・・東海道一賑わった宿場町・宮宿
唯一の海路・七里の渡し、尾張最大の湊町
本丸御殿に匹敵する東浜御殿
- ・ 平安時代から続く熱田まつり
- ・ 江戸時代の賑わいから生まれた神戸節、都々逸



● 豊かな水辺と緑

- ・ 堀川、新堀川に囲まれた地形
- ・ 水辺に面した豊かな公共空間
 - …宮の渡し公園、大瀬子公園、白鳥公園、遊歩道
- ・ 水辺のアクティビティ…船、SUP
- ・ 緑豊かな公園
 - …白鳥庭園、熱田神宮公園、神宮東公園



● まちを盛り上げる地域活動

- ・ あつた宮宿会
 - …あつた朔日市、あつたカルタ、あつた紙芝居など
- ・ 熱田湊まちづくり協議会等の地域団体
 - …防災、SDGs、子ども食堂、子ども図書室など
- ・ 名古屋学院大学と地域の連携…「mochiyori」
- ・ 魅力的なイベント
 - …あったか！あつた魅力発見市、堀川まつり など

● 市民生活を支える施設の集積

- ・ 駅前の賑わい
 - …レトロな神宮前商店街・神宮小路
 - 神宮前駅周辺の商業開発
 - 「あつた nagAya」「μプラット」
- ・ 行政施設の集積
 - …熱田区役所、公所、図書館、文化小劇場、生涯学習センター、中央卸売市場
- ・ 大規模集客施設…名古屋国際会議場
- ・ 伝統を伝える老舗店舗、銘店



■ 現状と課題

【現状】

● 観光

- ・ 年間700万人超の参拝客がいるが、周辺への回遊がない。
- ・ 歴史資源は多いが、認知が不十分。
- ・ まちの歴史的な景観や雰囲気乏しい。
- ・ 飲食店等の立ち寄り場所や目的地が少ない。
- ・ 幹線道路がまちを分断し、回遊しづらい。
- ・ 便利な移動手段がない。
- ・ 観光バス駐車場や熱田湊エリアの駐車場が不足。

● 土地・建物

- ・ 区役所南市有地が未利用のまま。
- ・ 駅前商店街が衰退し、活気がない。
- ・ 密集した建物が老朽化し、災害危険性が高い。

● 水辺

- ・ 宮の渡し公園・大瀬子公園に魅力が不足。
- ・ 水辺に見所がない。水辺を活かした建物やアクティビティがみられない。
- ・ 船着き場が十分に利用されておらず、水上交通網に広がりが少ない。

【課題】

● エリア全体の回遊性創出

- ・ 目的地、立ち寄り場所の創出
- ・ 歴史的なまちの雰囲気づくり
- ・ 移動ルート・手段の確保

● 鉄道駅周辺のまちの更新・活性化

- ・ 土地の有効活用
- ・ 建物・都市機能の更新

● 水辺の有効活用・魅力向上

- ・ 魅力的な水辺空間づくり
- ・ 水面の活用(水上交通、アクティビティ等)

■ 現状と課題

【現状】

● 生活面

- ・ 駅周辺に店舗等が少なく、生活利便性が低い。
- ・ 買い物や移動が不便な地域がある。
- ・ 火災・水害など防災面で危険性の高い地域がある。

● まちづくり

- ・ 宮宿会、熱田湊まちづくり協議会、名鉄、名古屋学院大学など様々な主体が活動を展開。
- ・ 少子高齢化が進み、地域活動や伝統文化の次世代への継承が困難。

● 周辺エリア

- ・ 名古屋国際会議場や白鳥庭園等のある白鳥エリアなど周辺エリアとの連携があまりない。
- ・ 歴史的つながりのある旧東海道沿いの宿場町や名古屋城などとの連携があまりない。

【課題】

● 地域の生活課題への対応

- ・ 生活の利便性・安心・安全な住環境の提供
- ・ 地域の防災性の向上

● 人づくり・ネットワークづくり

- ・ 多様な主体の連携
- ・ コミュニティや担い手の育成
- ・ シビックプライドの醸成

● 外との連携

- ・ 観光面での周遊連携
- ・ 連携した魅力発信
- ・ まちづくりの協力

■ 地域団体等によるまちづくりの盛り上がり

あつた宮宿会

- H27より熱田神宮境内地等で「あつた朔日市」を開催
- 「あつたカルタ」「あつた紙芝居」などを作成し、まちの歴史を次世代へ伝承



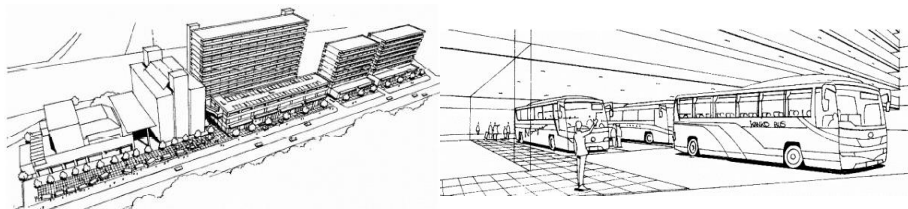
熱田湊まちづくり協議会

- 宮の渡し・大瀬古地区において地域課題解決や賑わい創出の取り組みを実施
- R4に「熱田湊まちづくりビジョン2022」を策定



熱田神宮駅前地区まちづくり協議会

- R2に「熱田神宮駅前地区まちづくり構想」を策定



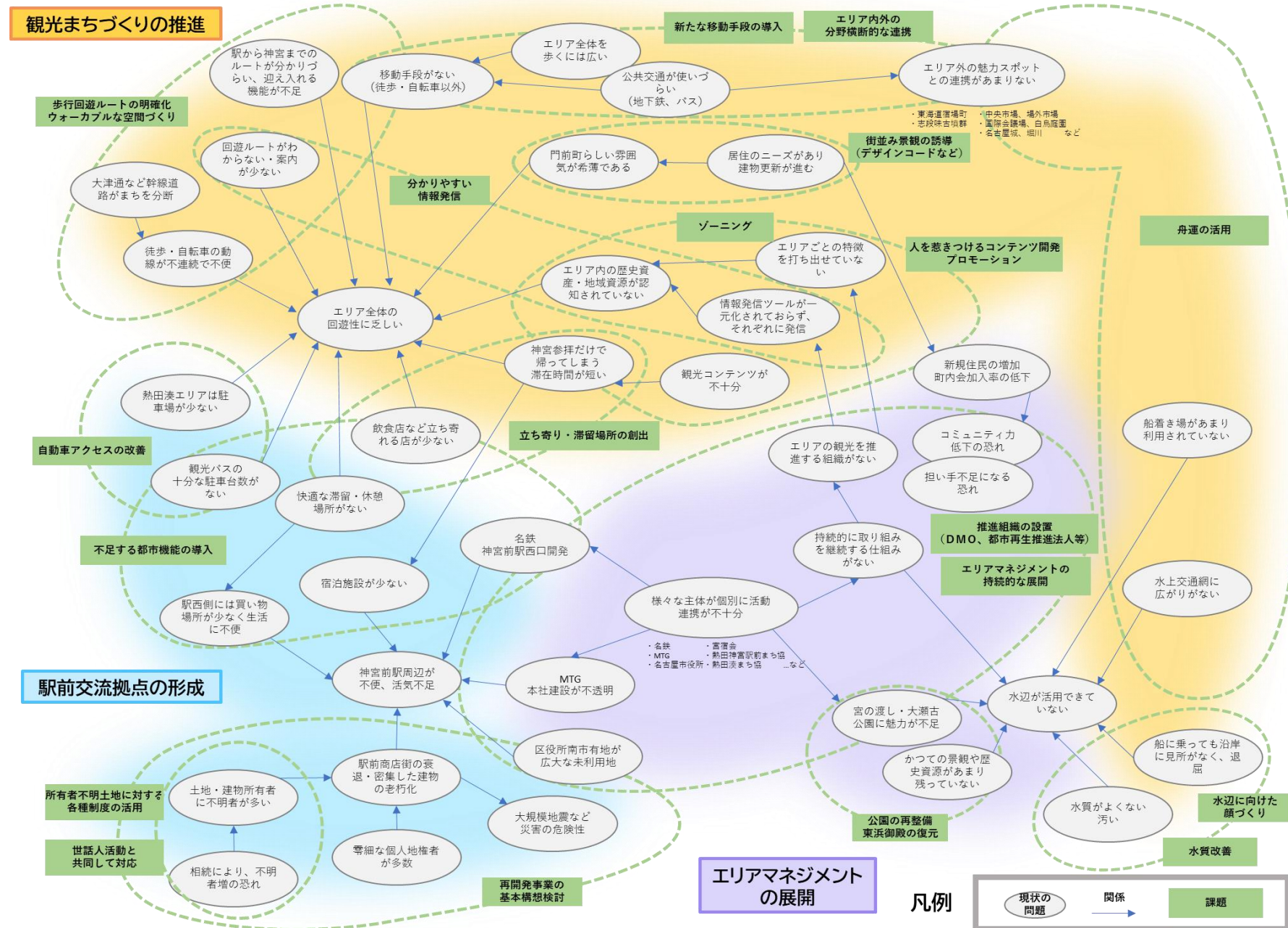
民間開発

- 名鉄による神宮前駅東西街区の開発
- MTGによる本社移転計画
- 旧旅籠屋「伊勢久」の保存活用



まちの現状と課題を相関図をもとに整理すると、「観光まちづくりの推進」、「駅前交流拠点の形成」、「エリアマネジメントの展開」という大きな3つの方向性が導き出されます。

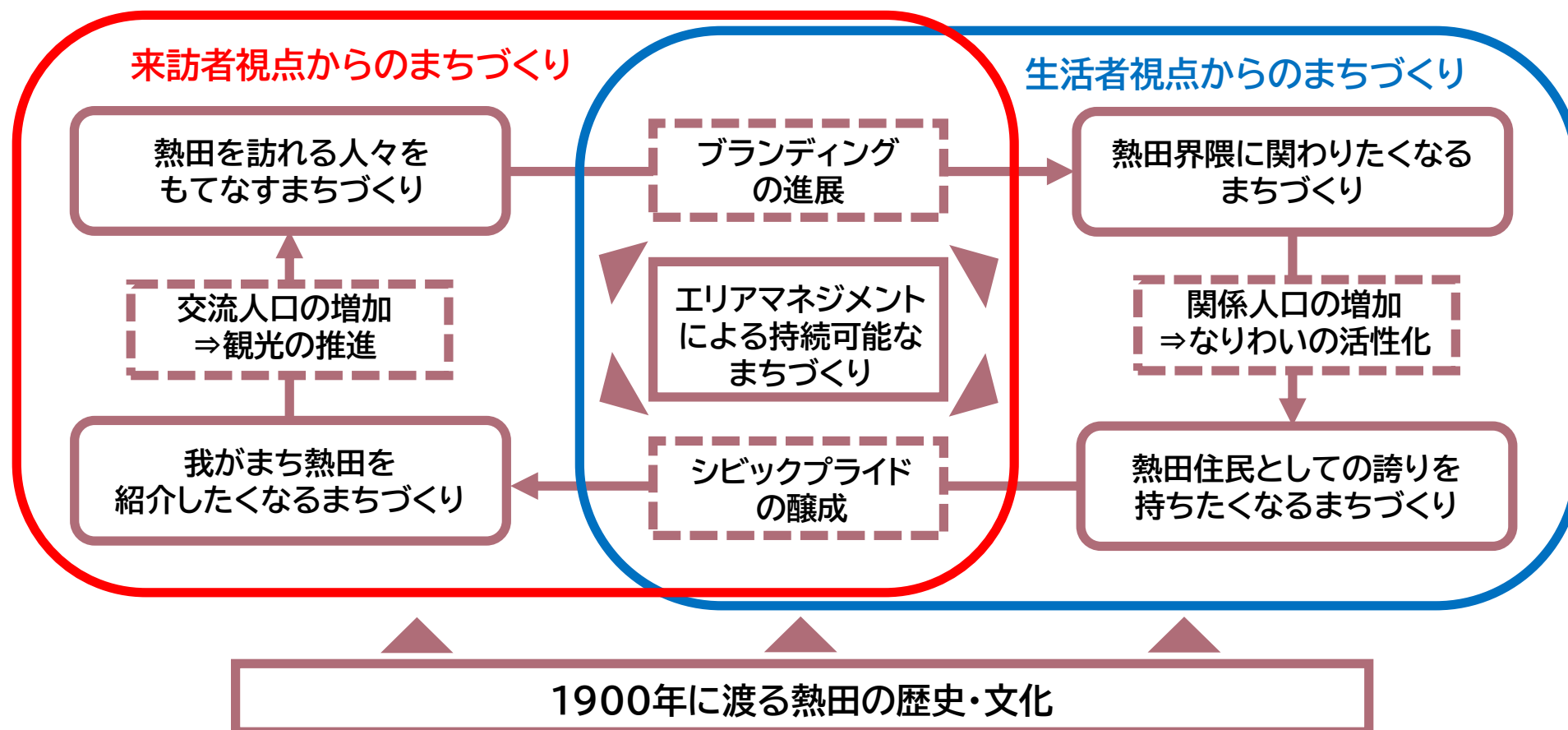
<まちの課題の相関図>



5. まちづくりの視点

本未来ビジョンに基づく熱田神宮周辺エリアのまちづくりは、以下の視点を前提にして進めていきます。

- 熱田のまちの生活、観光はともに歴史・文化が土台となり、その上で成り立っています。
- 「来訪者視点からのまちづくり」と「生活者視点からのまちづくり」は相互に補完し合う関係にあります。
- 地域の人々のなりわいや生活があるからこそ、シビックプライドが醸成され、観光まちづくりの推進につながります。
- 観光まちづくりが進むことで、地域の担い手を惹きつけるブランディングが進展し、地域のなりわいが活性化します。
- エリアマネジメントへ取組むことにより、まちづくり活動の持続的な展開につながります。



6. まちづくりの方針

まちの課題を整理して導き出した3つの方向性とまちづくり視点を踏まえ、まちづくりの合言葉の実現に向けたまちづくり方針として次の3つを設定します。

【方針1】

歴史と文化を体感する熱田神宮を中心とした観光まちづくりの推進

熱田神宮周辺エリア全体のまちづくりに向けた方針

【方針2】

人々をもてなし多様な交流を促進する現代の門前町・宿場町の形成

駅周辺ゾーンの市街地整備に向けた方針

【方針3】

過去から未来へと人の営みをつなげ育むエリアマネジメントの展開

取組み継続のための人づくり・体制づくりに向けた方針

【方針1】 歴史と文化を体感する熱田神宮を中心とした観光まちづくりの推進

〔将来像〕

- 熱田神宮への参拝客が、周辺にも足を伸ばし、都々逸や熱田神戸節をはじめとする熱田ならではの文化体験、旧街道や神宮参道のそぞろ歩き、七里の渡しや断夫山古墳などを巡る史跡散策、老舗の味、駅前広場や公園で開催されているイベントや水辺のアクティビティなどを楽しんでいる。
- 次世代モビリティや水上バスなどの快適で便利な交通ネットワークにより、多くの来訪者が、熱田神宮や鉄道駅から白鳥庭園や名古屋国際会議場、更には名古屋城などの周辺・エリア外の連携施設との間を往来している。
- 熱田神宮周辺の各所に設けられたまち宿では、日本の伝統的なおもてなしを求めて来訪する外国人観光客が、東海道最大の宿場町であり、湊町・漁師町でもあった宮宿の雰囲気味わいながら、地元の人たちとの交流を深めている。
- 日本が誇る歴史・文化の中心地として1900年に及ぶ悠久の歴史を有する熱田の魅力が様々なメディアを通して発信され、熱田ブランドとして国内外から多くの人々を惹きつけている。



■【方針1】の将来像実現に向けた取組みの方向性

<ハードの取組み>

- 熱田らしさを感じる市街地の整備
 - ・ 空き家・空き店舗のリノベーション ⇒まち宿や熱田の魅力発信拠点、まちづくり活動拠点の整備
 - ・ 景観デザインコードの設定や建築ルールの見直し ⇒門前町や宿場町、湊町ならではの歴史を感じる街並みの形成
 - ・ 宮の渡し公園、堀川・新堀川などの公共空間整備 ⇒公共空間の利活用、水辺・水面を活用したアクティビティ
- 誰もが移動しやすい回遊ネットワークの形成
 - ・ スムーズな歩行者動線の整備、案内誘導機能の強化(多言語対応、Wi-Fi環境の整備等)、モビリティ・ハブや移動支援サービスの導入等 ⇒エリア全体をつなぐ回遊ネットワーク形成
 - ・ 水上交通や鉄道、バス等を利用した広域ネットワークの形成 ⇒エリア外の観光施設や拠点駅と連携した誘客

<ソフトの取組み>

- 熱田ならではの観光・交流資源の磨き上げ
 - ・ 歴史・文化、芸能、祭り、水辺、食などを活用した観光コンテンツ等の開発 ⇒熱田ならではの体験をする機会の提供
 - ・ 案内ガイドの育成 ⇒おもてなし環境の整備、地域と観光客との交流促進
 - ・ ユニバーサルツーリズムの理念の実践 ⇒あらゆる来訪者に対応した受け入れ環境の整備・体制の構築
- 戦略的な情報発信
 - ・ 歴史・文化資源のアーカイブ化、DXの活用 ⇒提供できるコンテンツと来訪者の嗜好のマッチング
 - ・ 国内・海外への情報発信、シティプロモーションの実践 ⇒エリアのブランディング

※各取組みの具体的内容、実施主体等を定めるアクションプログラムを作成予定

【方針2】 人々をもてなし多様な交流を促進する現代の門前町・宿場町の形成

〔将来像〕

- 熱田ならではの老舗の味やお土産の買い物を楽しめる飲食店や店舗のほか、ホテル、広場、生活利便施設や鉄道とスムーズに乗り換えができるロータリーなど、多彩で便利な都市機能が集積した駅前空間として再開発が進み、国内外からの熱田神宮来訪者や駅利用者、地域住民らによる賑わいがまちに溢れている。
- 誰もが居心地よく過ごすことができるまちなかのオープンスペースでは、様々なイベントや地域活動等が開催され、人々の多様な交流・出会いが生まれている。
- 名古屋都心や名古屋国際会議場を訪れたビジネスパーソンが、会議やコンベンション後のおもてなし・交流の場として駅前の飲食街を利用し、昼だけでなく夜も熱田ならではの人情味ある雰囲気を楽しんでいる。
- 名古屋駅や中部国際空港にも直結する拠点駅、そして熱田神宮の門前にふさわしい、風格ある駅前の街並みが形成され、熱田神宮境内の豊かな緑と調和しながら、人々を熱田神宮へと誘(いざな)っている。



■【方針2】の将来像実現に向けた取組みの方向性

<ハードの取組み>

● 駅周辺再開発の展開による交流拠点の形成

(導入機能の例)

- ・ 観光バスの乗降場・待機場等の整備 ⇒ 駅周辺エリアの観光拠点化、観光客の回遊行動の促進
- ・ 鉄道とスムーズに乗り換えられる駅前ロータリー等の整備 ⇒ 拠点駅にふさわしい利便性の向上
- ・ 熱田ならではの雰囲気を感じる駅前商業施設等の整備 ⇒ 昼夜を問わない賑わいの創出
- ・ ハイクラスなホテル旅館等の誘致 ⇒ エリアのグレード向上、海外富裕層の呼び込み
- ・ 居心地よく多機能な公開空地等の整備 ⇒ 地域住民・来訪者の交流・出会いを促進する場づくり
- ・ グレードの高い耐震性能の確保や防災機能の整備 ⇒ 南海トラフ地震等の自然災害に備えた都市の強靱化
- ・ 利便性の高い立地条件を活かした住環境の整備 ⇒ 集約連携型まちづくりの推進、恒常的な賑わいの創出
- ・ 駅から熱田神宮までの安心で快適な歩行者動線の確保 ⇒ 観光客の回遊行動の促進

● 民間活力を活用した都市機能の集積・都市空間の形成

- ・ 補助金、税制優遇措置等の開発インセンティブ制度の積極的な活用 ⇒ 民間投資の促進

<ソフトの取組み>

● 多様な人材の交流を促進する仕掛けづくり

- ・ オープンスペースにおけるイベントの開催 ⇒ 新たな交流・出会いの創出
- ・ 名古屋国際会議場利用者のアフターコンベンション受入れ対応 ⇒ MICE開催数の増加、MICE参加者の誘引

※各取組みの具体的内容、実施主体等を定めるアクションプログラムを作成予定

【方針3】 過去から未来へと人の営みをつなげ育むエリアマネジメントの展開

〔将来像〕

- 行政やまちづくり会社をはじめ熱田に関わる産官学民からなる多様な主体によって組織されたエリアプラットフォームを中心として、各主体が連携・協働し、観光まちづくりを中心とした地域全体を豊かにする取り組みが展開されている。
- 名古屋市内外のエリアマネジメント団体との交流や熱田エリアに興味を持つスタートアップ起業家への地域ぐるみによる支援等により、まちづくり人材が発掘・育成され、協働・創造のネットワークが広がっている。
- 公園や水辺などの公共空間やオープンスペースの活用によるイベント等の開催、コミュニティの支援活動、子どもたちの学びの場の提供等を通じて、地域の魅力や住民の暮らしの質が向上することにより、熱田エリアに愛着・誇りを持った関係人口が増加している。
- まちづくりの取組み等で得た収益を、更なるまちづくりや地域の暮らしに再投資するなど、自走・持続可能なエリアマネジメントの仕組みが構築されている。



■【方針3】の将来像実現に向けた取組みの方向性

<ソフトの取組み>

- まちづくり会社によるまちづくり活動の本格化
 - ・ 地域まちづくり団体の法人化 ⇒都市再生推進法人へのステップアップ、行政とのパートナーシップ
 - ・ 都市再生整備計画策定の提案 ⇒道路・公園などの公共空間利活用の本格実施
 - ・ 公共駐車場等の指定管理 ⇒自走・持続可能なエリアマネジメントの仕組みの構築、収益のまちづくりへの還元
- まちづくり人材の発掘・担い手づくり
 - ・ 熱田神宮周辺エリア内での起業希望者に向けた起業イベントの開催や起業支援 ⇒関係人口の増加
 - ・ 地域内の子ども向け啓発活動の実施・学びの機会の提供 ⇒シビックプライドの醸成、まちづくり人材の育成
 - ・ 他地域のまちづくり団体との交流・情報交換 ⇒取組みへのフィードバック・企画・立案、まちづくりの新たな展開
 - ・ 地域コミュニティの支援 ⇒関係人口の増加、暮らしの質の向上
- エリアプラットフォーム会員の支援
 - ・ 各会員のまちづくり活動に対する支援、会員間の調整等の実施
- 公共空間の利活用による魅力的な場づくり
 - ・ 宮の渡し公園、堀川・新堀川など公園・水辺・オープンスペースの利活用による市民の憩い・活動の場の提供
⇒暮らしの質の向上、エリアの魅力向上、関係人口の増加

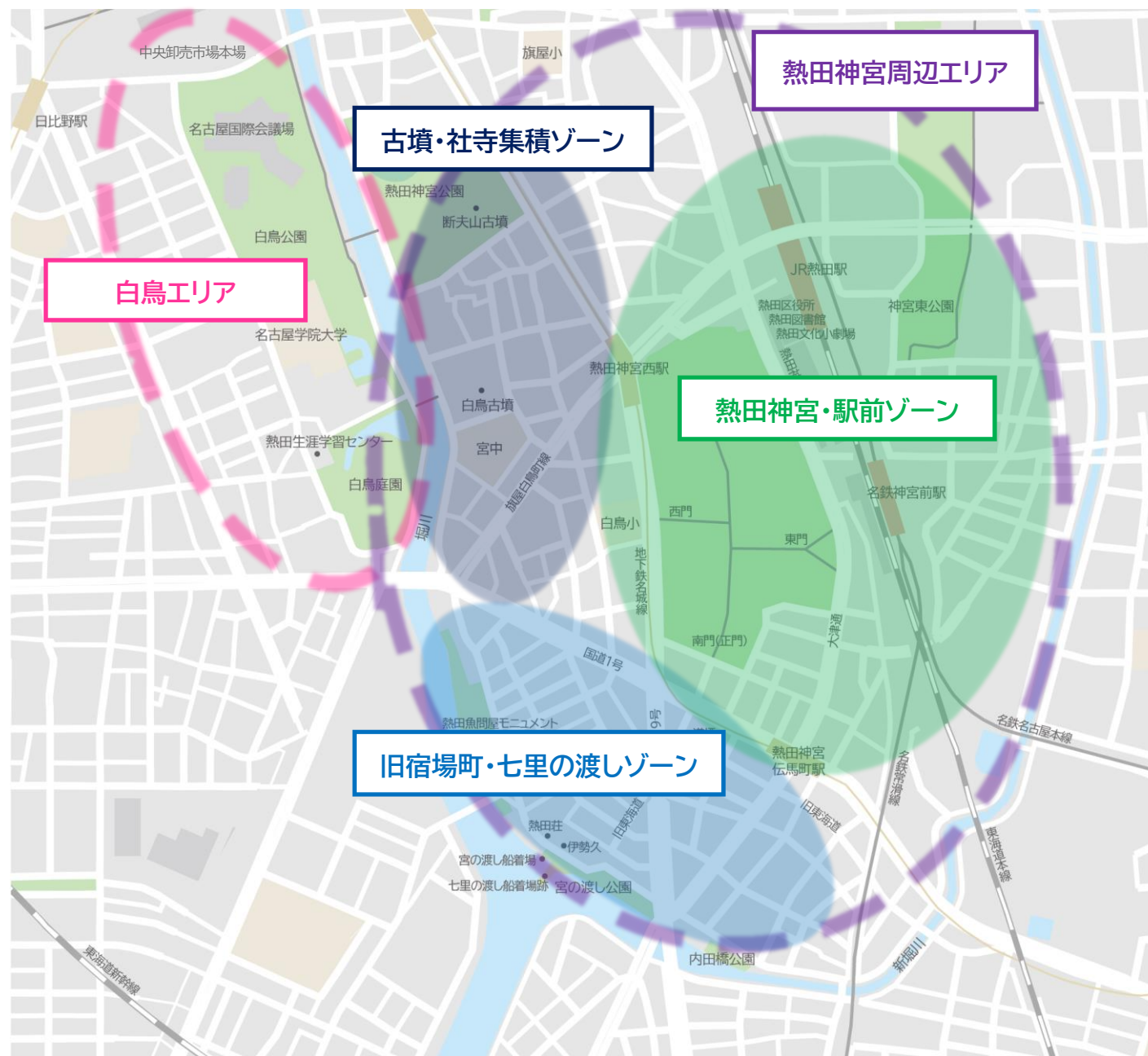
7. エリア・ゾーンごとのまちづくり

取り組みを進めるにあたり、地域特性に応じて、熱田神宮周辺エリア内を、下記の3つのゾーンに分けて、それぞれに将来像と取り組みを設定し、特色あるまちづくりを進めます。

- 熱田神宮・駅前ゾーン
- 旧宿場町・七里の渡しゾーン
- 古墳・社寺集積ゾーン

また、白鳥公園、白鳥庭園、中央卸売市場本場等の周辺施設と連携して名古屋国際会議場のMICE会場としての魅力を高める取り組みを進める「白鳥エリア」と連携を目指します。

これらエリア・ゾーンごとに取組みを進めることで、エリア全体の価値を高めていきます。



7-1 ～熱田神宮・駅前ゾーン～

熱田神宮・駅前ゾーン

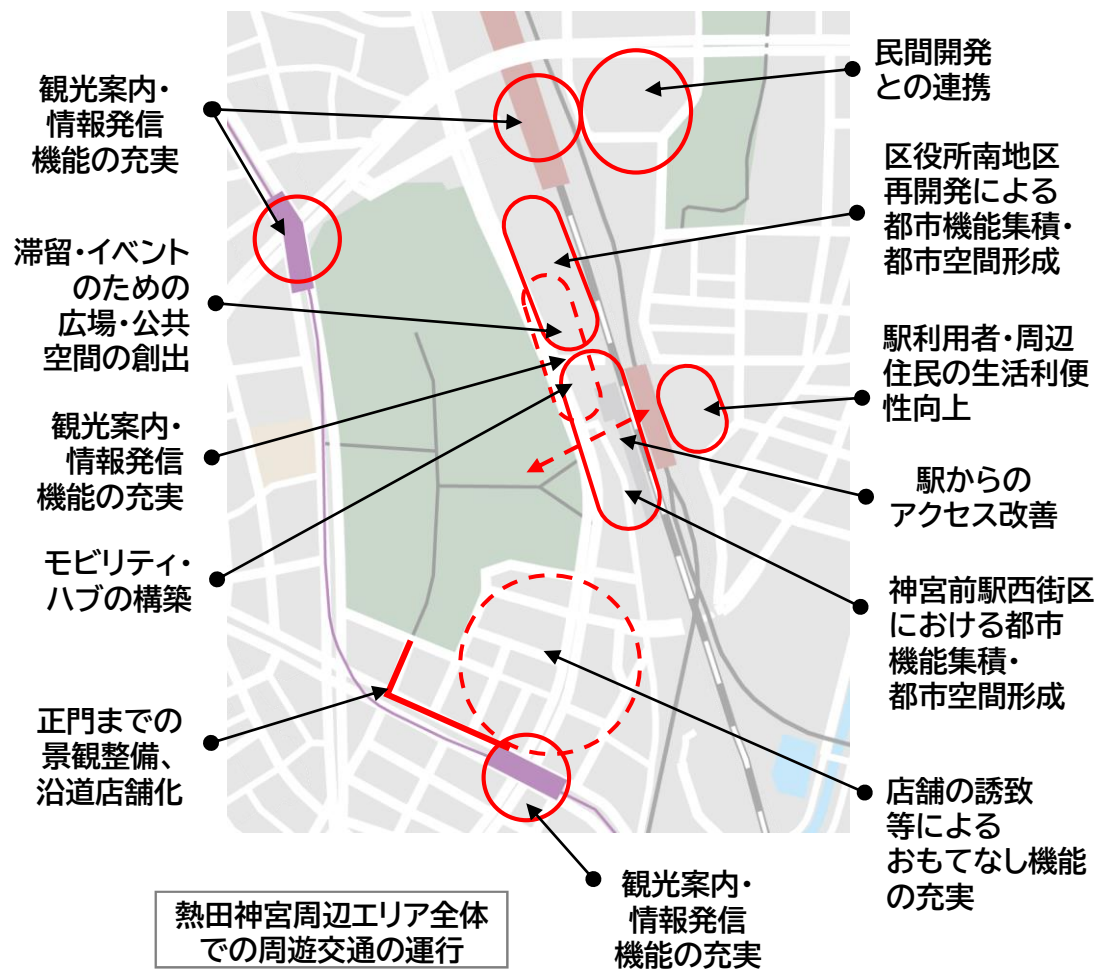
■特性

- ・ 熱田神宮を中心に、年間700万人超を集客するエリアの玄関口・顔になるゾーン
- ・ 名鉄・JR、地下鉄の各駅、バス拠点があり、観光客や鉄道利用者、地域住民が集う交通結節点
- ・ 観光や散策の起終点となる回遊拠点

■将来像イメージ

- ・ 神宮前駅西側は、熱田ならではの老舗飲食店など多様な店舗が集積し、熱田神宮の門前、エリア全体の玄関口にふさわしい風格とおもてなしの雰囲気にあふれた街並みが形成されている。
- ・ 広域交通結節点としての駅前だけでなく、周辺には回遊・移動の拠点(モビリティ・ハブ)が配置されており、多くの観光客が熱田神宮だけにとどまらず、周辺にも足を伸ばしている。
- ・ 地域の中心的なイベント・発表の場、住民・来街者の交流の場としてオープンスペースが活用されており、いつも大勢の人で賑わっている。
- ・ 名古屋国際会議場の利用者がアフターコンベンションの場として来訪しており、名古屋発のイノベーション創出をサポートするおもてなしの場になっている。
- ・ 神宮前駅東側は、駅利用者の利便性や周辺住民の暮らしの質の向上に資する便利な機能が揃っており、落ち着きのある日常空間が広がっている。

熱田神宮・駅前ゾーン



■取組みのイメージ

- 市街地再開発事業等による商業・交流・居住・宿泊などの多彩な都市機能の集積や快適な都市空間の形成(区役所南地区、名鉄神宮前駅西街区)
- 民間開発との連携によるまちづくりを促進する各種インセンティブ制度の活用
- 周遊交通サービス(シェアサイクル、電動キックボード、グリーンスローモビリティ等)、駐車場、ロータリー機能などの導入によるモビリティ・ハブの構築
- 鉄道駅等におけるサイネージなどの設置による観光案内、情報発信機能の充実
- 滞留・イベントなどのための広場や公共空間の創出と利活用の仕組みづくり
- 各駅と熱田神宮各門を結ぶ動線の景観整備・保全と沿道へのにぎわい施設誘致
- 名古屋国際会議場への来訪者のアフターコンベンション等の場となるおもてなし機能の充実

7-2 ～旧宿場町・七里の渡しゾーン～

旧宿場町・七里の渡しゾーン

■特性

- ・ 門前町・宿場町・湊町・漁師町として栄えたエリアであり、歴史的資源が集積するゾーン
- ・ 堀川・新堀川沿いに、宮の渡し公園・大瀬子公園・内田橋公園などが立地する水辺のまち
- ・ 少子化・高齢化が進行し、日常の買い物が困難になるなど活力低下が危惧される地区

■将来イメージ

- ・ 宮の渡し公園と大瀬子公園を中心に歴史文化を活かした観光交流の拠点が整備され、熱田神宮や駅前と並ぶもうひとつの集客の核を形成している。
- ・ エリア内の周遊交通により熱田神宮や駅前から快適にアクセスできる。また、水上交通により名古屋城や都心部とも多くの人が行き来している。
- ・ 歴史的雰囲気を感じられる街並みのなかで、歴史散策や伝統文化の体験、人々との触れ合いなど、まちを深く知りたい人が熱田ならではの魅力を味わうことができる。
- ・ 水辺に面した飲食店や水辺のアクティビティをはじめ、親水エリアならではの新たな観光コンテンツや見どころを楽しむことができ、熱田の新たな人気スポットとなっている。
- ・ ゲストハウス等とともに飲食店、物販店、移動手段など、まちへの滞在と地域住民の生活に役立つ機能が併存しており、おもてなし空間が生活空間へ自然に溶け込んでいる。

旧宿場町・七里の渡しゾーン



■取組みのイメージ

- 歴史文化、水辺の雰囲気により身近に感じられる宮の渡し公園・大瀬子公園の利活用や水辺アクティビティ(SUPなど)の展開
- 水上交通の運航や水辺の土地利用転換による水辺に顔を向けたまちづくりの推進
- 都市公園リノベーション協定等を活用した、都市再生推進法人による宮の渡し公園・大瀬子公園の歴史景観整備や歩行者動線の連続化
- 熱田湊の歴史や見どころを紹介するビジターセンター、来訪者向け駐車場の整備等によるおもてなし機能の強化
- 宮の渡しから熱田神宮までの参道や旧東海道のアクセス性や安全性の改善、沿道も含めた景観形成による雰囲気づくり
- 古民家等のリノベーションによるまち宿や店舗等の整備と、事業者の誘致、体験プログラムの実施等を組み合わせた観光コンテンツの開発
- 地域の買い物支援(送迎事業など)と地域の回遊性向上に資する周遊交通の運行

7-3 ～古墳・社寺集積ゾーン～

古墳・社寺集積ゾーン

■特性

- ・ 熱田神宮の繁栄にあわせ室町・江戸期を中心に神社、寺院が集積するゾーン
- ・ 断夫山古墳、白鳥古墳など古墳時代の歴史や伝説にも触れられるゾーン
- ・ 小中学校が立地し、住居中心の閑静なゾーン

■将来イメージ

- ・ 社寺巡りや古墳を散策したり、お寺でのプログラムを体験したり、隠れ家的なカフェでのんびりしたり、静かにゆったりとまちで過ごすことができる。
- ・ 境内や公園、歩道などに居心地の良い休憩施設が点在し、地域住民との何気ない触れ合いも楽しめる。
- ・ 花や緑でまちがきれいに彩られている。
- ・ 文教的な雰囲気があり、安全・安心な暮らしやすい環境が整っている。

古墳・社寺集積ゾーン



熱田神宮周辺エリア全体
での周遊交通の運行

■取組みのイメージ

- まち歩き散策ルートの整備
- コミュニティ道路の景観整備
- お寺での体験プログラムの開発
- 社寺境内を活用した地域イベントの開催
- 白鳥公園(旗屋町公園)の利活用
- 熱田神宮西駅での情報発信
- 熱田神宮西駅から白鳥庭園までの案内誘導
- 店舗等の誘致
- 断夫山古墳の保存活用計画(愛知県策定予定)と連携した取組みの実施

8. 拠点とネットワーク

都市機能が集中する駅前
や魅力ある地域資源など、
人流が集中するスポッ
トを、地域の「拠点」と位置
付けます。(熱田神宮周辺
エリア外の拠点も含む)



この「拠点」と「拠点」の間、
及び「拠点」と「駅」の間を
結ぶ動線を「ネットワーク」
と位置付けます。



「拠点」の魅力向上を図る
とともに、快適に移動でき
る「ネットワーク」を整備す
ることで、エリア内の回遊
性向上や拠点間の連携強
化を図り、まちづくりの効
果を相乗的に高めます。



8-1 ～歩行回遊ネットワーク～

歩行回遊
ネットワーク



取組みの方向性

- ・熱田神宮や各駅を起点として、エリア内を楽しく歩けるウォーカブルなネットワークの形成を目指します。
- ・鉄道駅から熱田神宮までは、駅前開発等を契機として、駅から熱田神宮まで安全・快適に移動できる歩行者動線の確保を検討します。
- ・熱田神宮正門と宮の渡し間の参道や旧東海道は、古(いにしえ)の街道の復興に向けた機運醸成のため、歴史を感じながら散策できる沿道の雰囲気作りに努めます。



8-2 ～移動支援モビリティネットワーク～

移動支援モビリティ
ネットワーク



取組みの方向性

- ・ 歩行回遊を支援する多様なモビリティを導入し、熱田神宮周辺エリア内だけでなく白鳥エリアまで快適に移動できるネットワークの形成を目指します。
- ・ 観光客だけでなく、買い物に困難な地域にお住まいの方々の利便性向上にも資するモビリティの導入を検討します。
- ・ 各拠点・駅にはモビリティ・ハブや多言語対応の誘導機能を整備し、誰にとっても分かりやすく便利な移動支援の実現に努めます。



8-4 ～広域・国際ネットワーク～

広域・国際
ネットワーク



取組みの方向性

- 名古屋駅や中部国際空港などの広域交通拠点と直結する立地特性を活かし、インバウンドやリニア効果の取り込み、周辺県の主要観光地と連携した集客を目指します。
- 広域観光の際の宿泊場所として選ばれるために必要となる熱田ならではの雰囲気を感じられるホテルの誘致やまち宿の整備を検討します。
- 観光コンテンツの磨き上げやユニバーサルツーリズムの理念の実践を通して、おもてなし環境の向上に努めます。



【コラム】 グリーンスローモビリティ運行実証実験

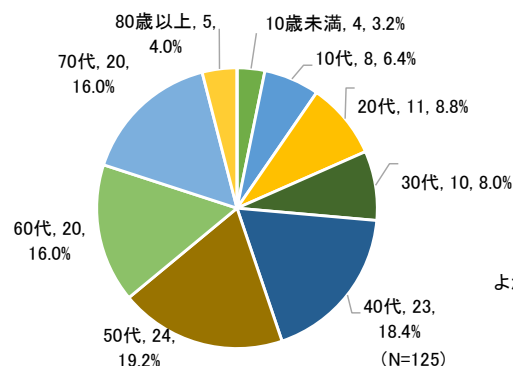
■ 開催概要

- ・ 開催日時 令和5年9月30日(土)・10月1日(日) 9:00~17:00
- ・ 運行コース 熱田神宮正門付近~宮の渡し公園(1周約25分)、10便/日
- ・ 車両 e-COM8²(シンクトゥギャザー社製)

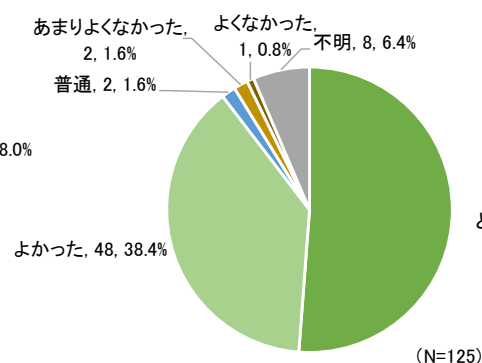
■ 実証実験の成果

乗車人数(全便満席)	140名
アンケート回答者数	125名

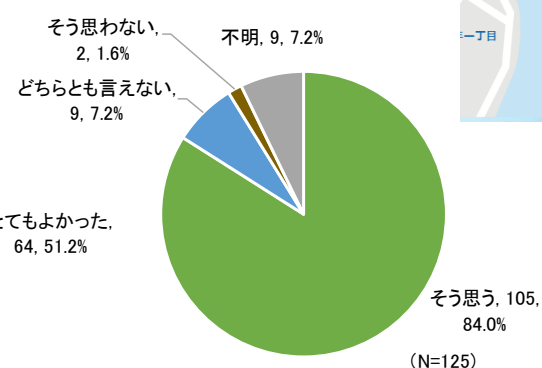
年齢構成



ツアーに参加した感想



またグリーンスローモビリティに乗って観光したいか

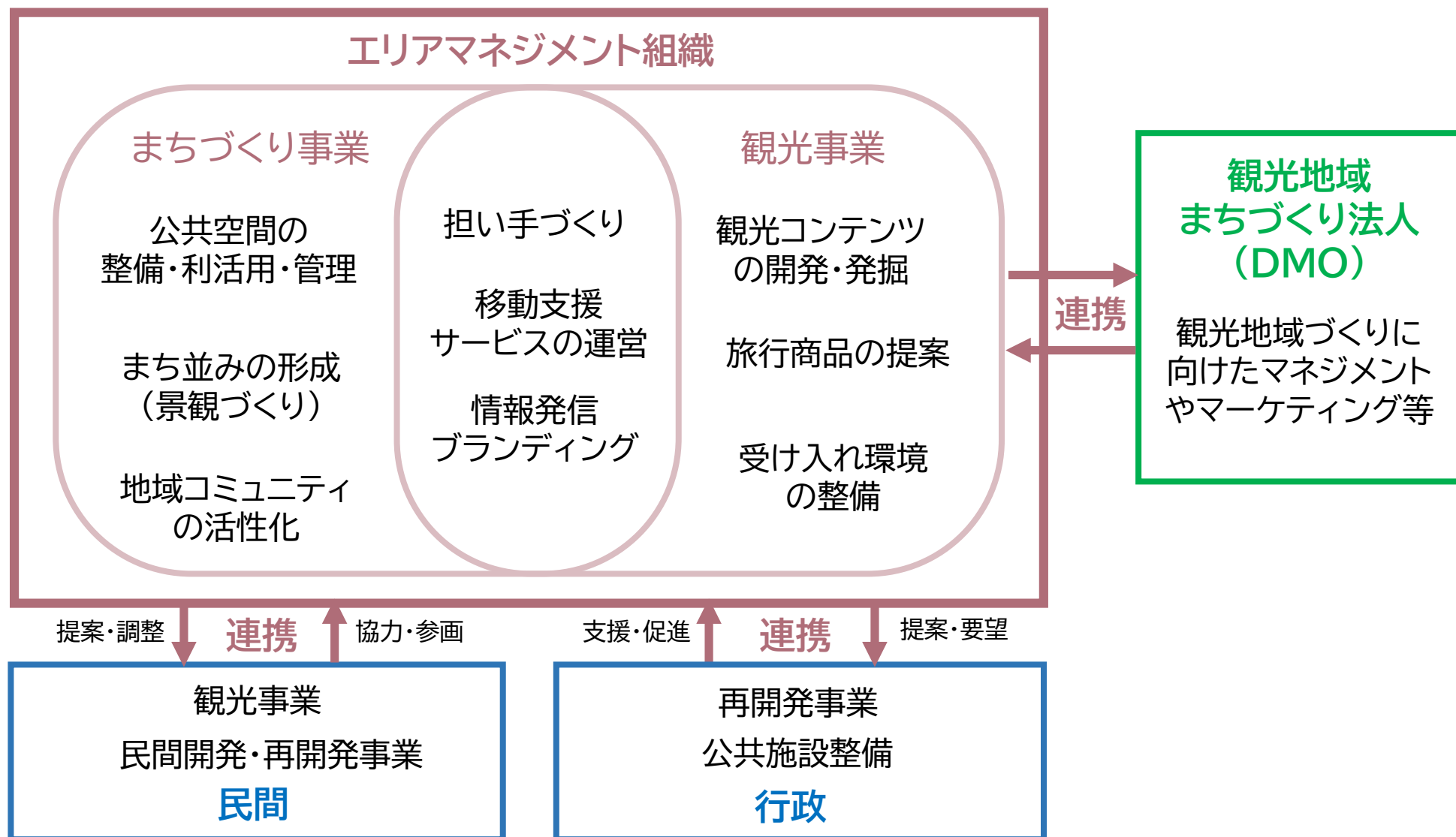


■ 今後の展開に向けて

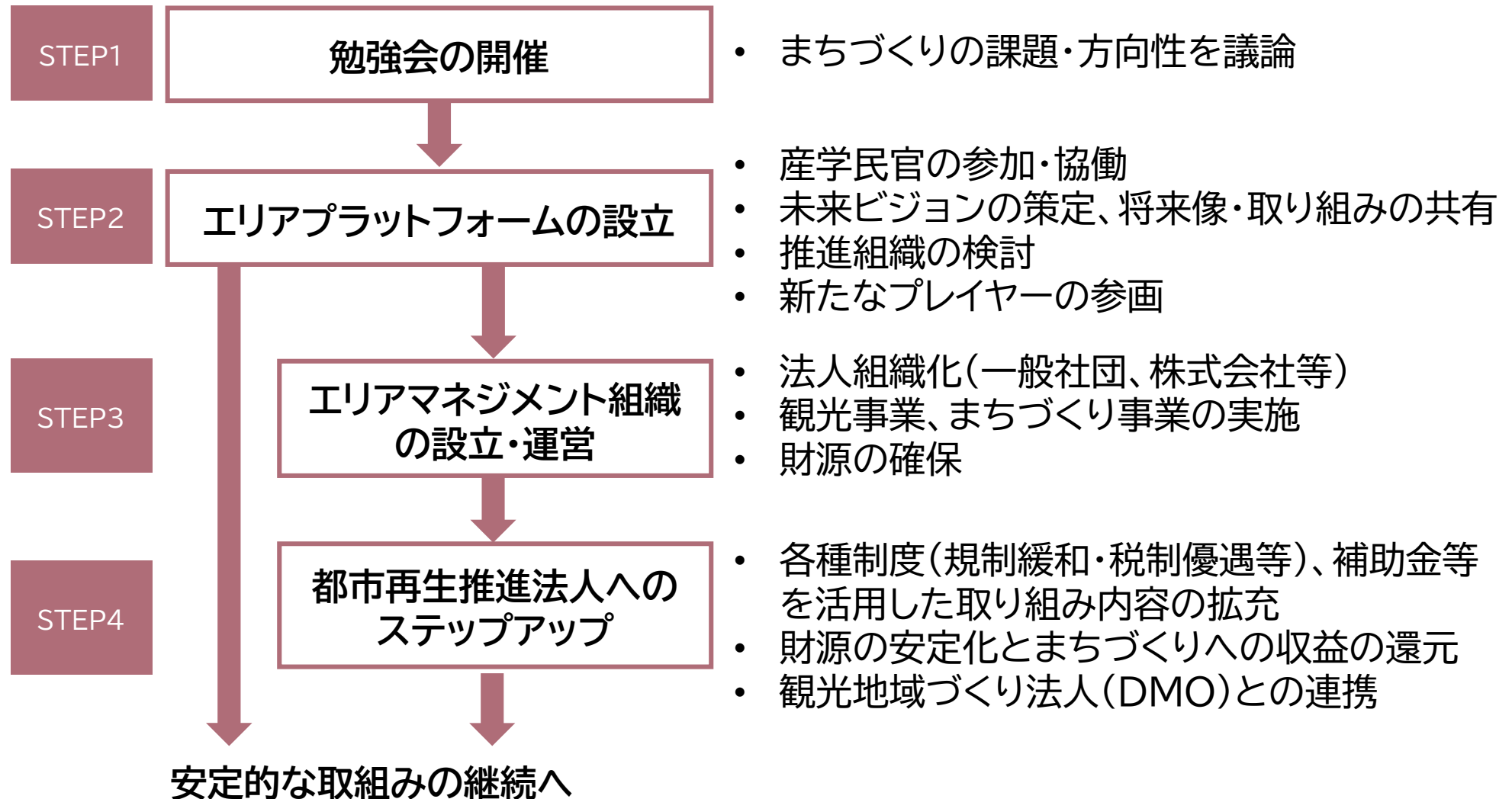
- ・ 実証実験を継続的に実施し、ニーズの掘り起こしや事業性の検証を行う。

9. 将来像実現に向けた組織体制

■ エリアマネジメント組織の事業・役割・運営

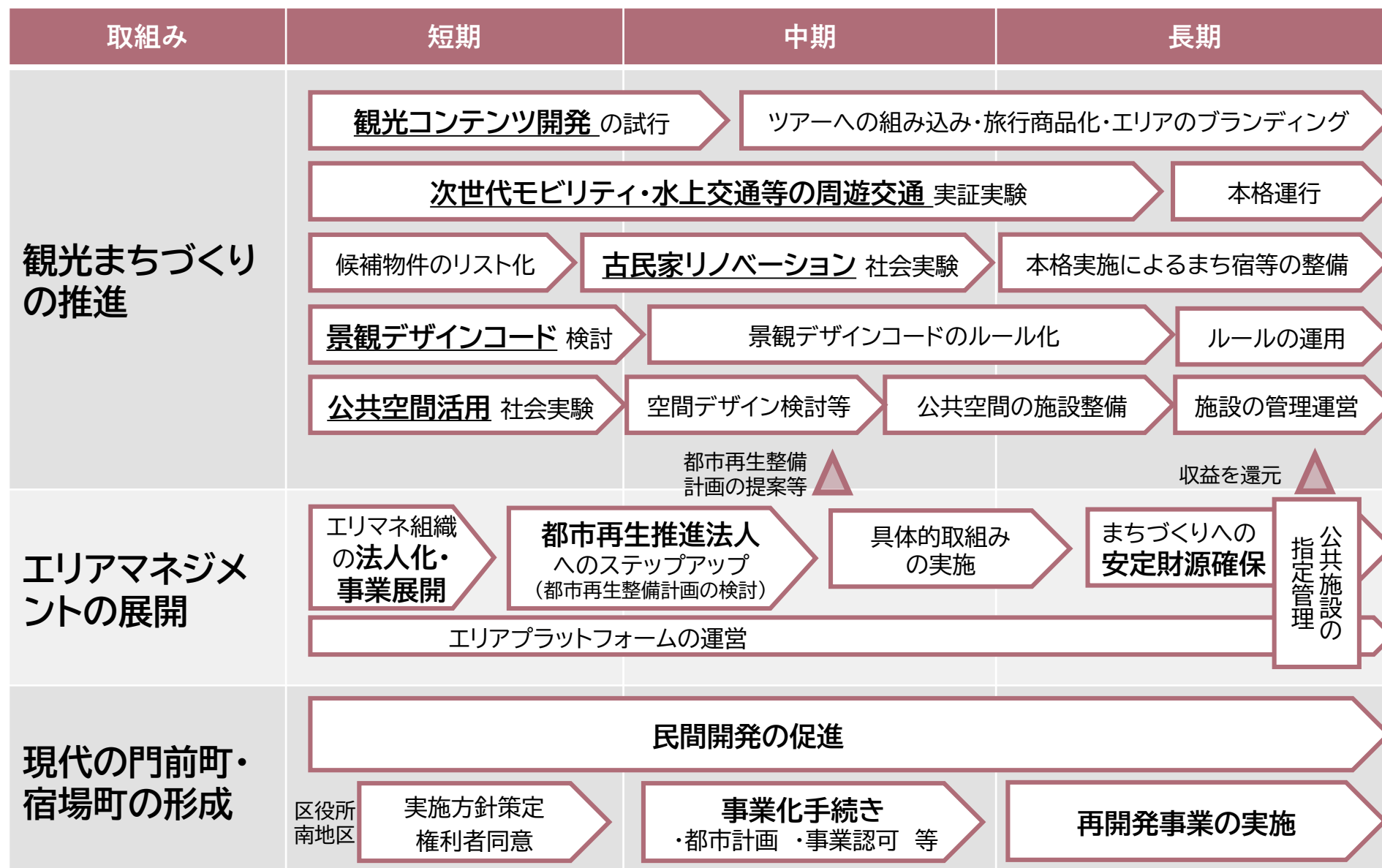


■ 推進体制(エリアマネジメント組織)のステップ



10. ロードマップ

■ 主な取り組みのロードマップ



※各取組みの具体的内容、実施主体等を定めるアクションプログラムを作成予定